

「春に差が出る庭木の冬支度」開催レポート

令和6年12月5日（区役所・中央公園）

講座の内容

前半の講義では、不要枝の見分け方や肥料について学びました。
後半の実習では、「トキワマンサク」、「ウバメガシ」、「マンサク」の剪定を体験した後、講師による寒肥を見学しました。実習後は園内を散策しながら、病害虫の被害の様子や樹木の生育環境などについて講師の解説を聞きました。

＜講義の様子＞



ウチワサボテンと100均のサボテンを用いて、接ぎ木の実演。



不要枝の原因や悪影響を説明いただいたあと、実物を見ながら、剪定方法や、樹木を一回り小さくする方法を学びました。



＜実習の様子＞



左はトキワマンサク、右はウバメガシの剪定。
講義で学んだことを活かして、楽しみながら剪定実習を行いました。



剪定後のマンサクに、寒肥として牛ふん堆肥、油かすを与えました。



講師
岸本 昭雄先生

「1級造園施工管理技士」、「樹木医」としても活躍する造園技術者。造園工事や樹木等の維持管理委託業務に携わっており、平成28年頃から足立区での「剪定講習会」等の講師を務める。

公園内での色々な発見（さるの腰かけはどうして出来るか？）など、色々な質問の中で発見があり、良かった。
（70代 4回以上）

剪定の実技が楽しかったです。また、肥料の話が良かった。
（70代 2回目）

木の切り場所等詳しく教えていただき参考になりました。冬支度のこと等いろいろ勉強になりました。
（70代 初参加）

参加者の声